

チャレンジいばらき



水戸女子高等学校 (インターアクト部)



高校生社会参画ネットワーク 一つ空の下で (UNSAM)



ボーイスカウト守谷第1団



ひぬま流域クリーン作戦

\ 応援しよう! /

特集

若い世代のボランティア活動

- ▶ ネットワーカー等連絡協議会代表者会議 ▶ 私のボランティア talk & matching 事業
- ▶ 社会活動デビュー支援事業 ▶ 団体会員を訪ねて ▶ ひぬま流域クリーン作戦
- ▶ 寺子屋サルーン ▶ 県民運動を地域で支える地域活動員(ネットワーカー)の活動紹介



令和
5年度

令和5年7月19日(水) 茨城県開発公社ビル

土浦市ネットワーカー等連絡協議会
会長 井深 敏彦さん



ネットワーカー等連絡協議会代表者会議



なめがたネットワーカー連絡協議会
会長 幡谷 千恵子さん

この会議では、住みよい茨城づくりや地域の人たちのネットワークづくりに取り組むネットワーカー(地域活動員)の皆さんによる活動報告や情報交換を行っています。

令和4年度に「チャレンジいばらき助け合い隊応援事業」を活用した2団体から活動報告がありました。土浦市ネットワーカー等連絡協議会からは、子どもたちと交流をしながら“霞ヶ浦をきれいにする”啓発活動やアクリルたわしづくりのワークショップ「エコ手づくり教室」について、なめがたネットワーカー連絡協議会からは、すべての人がデジタル化の恩恵を享受できる地域づくりと、シニア世代のスマホに対する問題解決を目指した「スマホ講習会」について報告がありました。

また、今年度2月に開催を予定しているネットワーカー活動推進大会について、事務局から事前アンケートの結果報告があり、利根町での開催が決定しました。



私のボランティア talk & matching 事業

令和5年8月2日(水) 茨城県三の丸庁舎(交流サルーンいばらき)

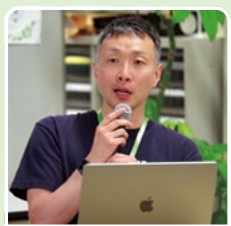
茨城県内でボランティア活動を行っている団体の取組を紹介する場を設け、新たなボランティア活動者の参加を促進するとともに、活動者同士の情報交換・ネットワーク拡充を図り、地域における共助のための活動を活性化します。

全4回開催予定で、第1回のテーマは、【地域福祉・医療】



NPO法人ちいきの学校
小林 信彦さん

設立4年目のNPO法人 ちいきの学校は、「『シニアが元気』は、イイことだ!」をキャッチコピーに元気なシニアに活躍してもらって社会を目指し、学び・活躍の場を創出しています。例えば、介護の専門業務以外の周辺業務を担う介護助手を育成する、地域の助っ人「ちいすけ」や地域の魅力を発掘・発信する活動を通じ、自分の生きがいにつなげていく「ダレでもライター」など、地域社会とのつながりを大切にしながら、多世代が笑顔で暮らせる地域づくりにチャレンジしています。



医療法人 AGRIE 理事長
株式会社 AGRI CARE 会長
株式会社 リーバー 代表取締役
医師 伊藤 俊一郎さん

心臓血管外科医として約10年県内で勤務し、術後療養が必要だが退院勧告をせざるを得ない状態を目の当たりにした経験から“脱サラ”、在宅医療専門クリニックや老人ホームなどを2015年に開業しました。医師一人でスタートしましたが、今は常勤40名で約6,500名の患者さんを支えています。医師でなくても出来る仕事は看護師や事務員に任せ、夜間対応は非常勤の医師と常勤の看護師たちでカバーするなど、働き方改革にも取り組んでいます。2040年には、医療費が現在の42兆円から約70兆円近くに膨らむと言われており、入院に比べコストを約35%減にできる在宅医療が注目を浴びています。日本は入院期間を減らし、地域で患者さんや高齢者を支えていこうとシフトチェンジしています。在宅医療は若い世代がチャレンジしてこなかった分野ですが、医師や看護師を集めて共有し、地域に貢献する取組を行っています。いつでもどこでもだれとでもわかりやすいビジョンを掲げ、在宅医療、遠隔医療、デジタル医療を駆使し、次世代の医療インフラを整えています。

令和
5年度

社会活動デビュー 支援事業

地域の課題解決など社会の新しい力になりたい皆さんのチャレンジを応援するセミナー。豊富な経験を持ったゲストの方々に、地域活動におけるノウハウやコツをわかりやすくお話しいただきました。

第1回「社会活動のファーストステップとは」&交流会

令和5年7月15日(土)



ゲスト

つくばまちなかデザイン株式会社
専務取締役 小林 遼平さん

社会活動を始めるためにとても大切な“動機”。なぜ活動したいのか、その原点を見失わないよう、立ち止まり考えることも必要です。また、いろいろな人の話を聞くこと。相手の立場を理解できるようになれば、活動内容の精査にもつながります。そして、何か困った時、調整役を担ってくれるような頼れるキーパーソンをぜひ見つけてください。街は何をする場所なのか、コロナ禍を経てその価値が変わり始めている今こそ、社会活動始める絶好の時期ではないでしょうか。一度きりの人生、まずはやってみることが大切です。新しい街の価値をみんなで作っていきましょう。



セミナー後半の交流会では、茨城県内で地域・まちづくりにも取り組むベンチャー企業が作ったご当地の美味しいものが勢揃い。各自自慢の逸品を楽しみつつ、参加者同士で交流を深めていました。移住してきた女性向けに地域情報を発信する活動を行いたいという初参加の方は、「とにかくやってみることが大事という言葉に勇気づけられました。」と嬉しそうにお話ししてくれました。

第2回 地域活動に必要なファンの拡げ方と資金調達

令和5年9月2日(土)



(株)CAMPFIREパートナーとして、以前は石川県の担当者としており、トータル300件以上のプロジェクトのサポートをしてきました。自身も年1,2回のペースで活用する挑戦者の立場でもあります。

資金調達方法のひとつであるクラウドファンディング(=CF)は、言うなれば予約販売サービス。成功例が目につくため、すぐに資金を確保できると思われがちですが、実は1円も集められずに失敗している例もあります。事前段階として、いろいろな人に伝えて、つながることが成功のカギです。実績がホームページに残るため融資を受けやすくなったり、上限額が増えたりすることもあります。

また、CFは資金調達以外にも、需要調査、広告・広報を目的に利用されています。地域によっては目新しい取組のため、メディアに取り上げられ、さらなる認知向上になることもあります。

ファンの拡げ方と資金調達の要点は同じで、“人を巻き込むこと”ですが、最後は絶対的な熱量を持ち、目の前の人にいかにも本気で語れるかです。CFをひとつの引き出しとしてお持ちください。



ゲスト

株式会社リバ郎/株式会社
CAMPFIRE(パートナー)
大堀 悟さん

第3回 地域活動を広げるシビックテックとまちづくり

令和5年9月2日(土)



ゲスト

株式会社 IRODORI
谷津 孝啓さん

人と人をつなぐコーディネート力が、社会活動をスタートする上では大事なポイント。地域活動と聞くと、ゼロから事業をつくることから始めがちですが、私たちは徹底的につながりを活かした事業を考えます。なぜやるのかというストーリー、そして「たった一人の誰か」のシーンをイメージし、感情に注目することで課題解決につながります。

また、「場」を持つことも活動を推進する大きな力になります。場づくりには、共感してくれる人だけでなく、異なる意見を持つ人も必要で、観点の違いに気づく・温度差を見つけるためには会話・対話をし、つながることが大切です。

課題解決に取り組みたい人々を応援するため、誰でもスマートフォンアプリが作れるソフトウェアの活用を推進しています。スマホの契約数と世界の人口はほぼ同数で約80億。世界中の人たちがスマホを持っており、活用すれば様々な課題を解決できる可能性が広がります。ワークショップに参加した小学生は、自分のお母さんの困りごとを解決するアプリを30分程で完成させました。子どもたちのテクノロジーを使った課題解決への挑戦も支援しています。



応援しよう! 若い世代のボラ

★どういった活動をしていますか？

事業の準備や企画会議を進めるのが月2回の定例会です。メンバー全員が揃うのは難しいので議事や進捗はグループLINEで共有しています。主な活動は①会主催事業、②他団体からの要請による事業、③共催事業の3種類です。特に②については、様々な団体さんから声をかけていただくことが多く、昨年は44件の活動実績がありました。①の会主催事業では、子どもや親子向けのもの、高齢者向けのものを自分たちで企画・運営して行っています。



高校2年 会長 高橋 美沙希さん

★最近実施した会主催の事業はなんですか？

夏休みの宿題が終わらないという小学生の悩みに応え実施したのが「サブの宿題おたすけ会」です。高校生なら親身になって学習のお手伝いができるのでは、と考え企画しました。予想以上に好評で、子どもたちだけでなく保護者の方からも「よかった」という声をいただきました。2回目の開催となる今年度は、定例会で対応をシミュレーションしたり、手書きの参加証明書を準備したり、全て自分たちで考えたアイデアが活かされたと思います。



★高校生会長として、大変だなと思うことは？

定例会ごとに話し合ったことをまとめて全メンバーに送ったりやるのが多く大変ですが、副会長の2人とみんなのサポートがすごく大きくて感謝しています。困った時には必ず助けてくれるんですよ。だから、苦労よりもやりがいの方が遥かに上回っています。要請のあった団体さんから「すごく助かったよ」と言われるのが嬉しい。会長をやっているよかったです、と心から思える瞬間です。

水戸市

水戸市サブリーダーズ会

社会のリーダーとして活躍できる人材の育成を目標に活動して48年。数多くの高校生がボランティアに従事してきた功績は大きく、いまや水戸市の事業や様々な団体の活動サポートに必要不可欠な存在となっています。基本的に活動への参加は義務でも当番制でもなく本人の自由意志。勉強や部活、アルバイトをしなくても無理なくボランティアできるスタイルが長続きの秘訣かも知れません。



会の方針が「活動は行ける時に自由参加」なので、学業や部活とも両立できるのが嬉しいです。両立できた自分に自信が付き、成長の糧にもなっていると感じます。



高校2年 副会長 中村 結菜さん



高校2年 副会長 関 しおりさん

姉妹都市交流で敦賀市から水戸へ来た小学生のお世話をしました。子ども好き&妹がいる自分にぴったりの活動ができて良かったです。

★部の活動内容は どうやって決めていますか？

主な活動は、ボランティアセンターやロータリークラブからの依頼ですが、地域の方からの声かけもあります。テスト期間や早期集合など、生徒に負担がかかるもの以外はお受けしています。



顧問 鈴木 淑子さん

★活動する上で大切にしている事は？

生徒たち自身が考えて行動するスタイル。生徒たちを信頼して任せることで、各々が持つ無限大の「のびしろ」と、自主性を養いたいと思っています。また、伝統的に続く「学年を超え皆で楽しく活動する雰囲気」に惹かれて、毎年部員が集まっています。

★他校との交流はありますか？

県内のインターアクト部が集まる年次大会があり、来年は本校で開催予定です。「訳語絵本づくり」に挑戦するため、茨城アジア教育基金を支える会の皆さんから講習を受け、準備を整えています。

★印象に残っている活動はありますか？

(鈴木さん) 子どもフードパントリーの参加者と話をして現状を知り、活動の意義とやりがいを感じました。

(市村さん) 茨城メロンメロンラン水戸偕楽園のお手伝いで、ランナーにメロンを配ったのは貴重な体験です。

(鈴木顧問) 老人ホームや保育園でのボランティア、台湾の高校生との交流が、コロナ禍以降行えていないことが残念です。

★ボランティアを始めて変わったことはありますか？

(鈴木さん) 始める前は不安や緊張がありましたが、ボランティアに参加する人たちの優しさに触れて、次も頑張ろう! もっとやろう! という気持ちに変わって、3年間楽しく続けられました。

(市村さん) 消極的だった自分が、いろいろな人とコミュニケーションをとり、積極的に動けるようになり...成長を実感しています。

水戸市

水戸女子高等学校 (インターアクト部)

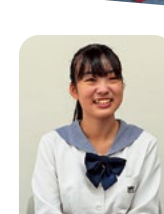
平成4年、水戸西ロータリークラブの下部組織として発足した同部。「世界に友だちを広げながらボランティア精神と国際感覚を身につける」インターアクトの方針と、仲間と共に楽しむ伝統を受け継ぎながら、31名の部員が和気あいあいと活動しています。



部での経験を活かし、子供たちをサポートできるスクールカウンセラーになりたいと思っています。



高校3年 副部長 市村 咲樹さん



高校3年 部長 鈴木 優美さん

アイメイト協会に寄付するため、書き損じはがきを集めています。是非ご協力下さい!(学校宛にお送りください)

ボランティア活動

いま、若者ならではの視点や発想を活かした新しい形のボランティアが生まれています。地域や多世代の人との関わりを楽しみながら活動に取り組む皆さんをご紹介します！



★ボランティア活動を行うきっかけは？

守谷ハーフマラソンのお手伝いや利根川クリーン作戦などは市から依頼があります。1月の郷土行事“あわんとり(どんと焼き)”のようにこちらから地域の人たちと一緒に活動したいと持ち掛ける時もあります。また、小川一成団委員長からの情報提供で新しい社会貢献の機会を得ています。最近では、11月に桜の植樹事業があるので団としても整地から携わり1本植えないかとお話がありました。桜の成長を見守ることで地域への定着にもつながればという想いが込められた提案でした。



カブ隊リーダー
黒柳 和志さん

ビーバー隊リーダー
と 土勢 真琳さん

★6月の取手水害を受け募金活動がされたとお聞きしました

募金をする前には、隊員たちに活動する意義を考えてもらう時間を必ずつくります。そして常に明確な目標を持って取り組みます。この時は、水害に遭われた方々を支援するため集めたお金を市長にお渡しするという目標を掲げやり遂げました。12月に行う募金では7~8歳の隊員も参加して3時間呼びかけを続けます。年長者はその子たちがやり切れるようフォローし、子供たちはそれに応えようと頑張ります。お互いに成長し合う、それには良いお手本がそばにすることが大切なのだと実感します。

★活動を続けていく原動力を教えてください

(土勢さん) 期間に縛られることなく、地域の中で協力してずっと切磋琢磨していけることが魅力です。制服を着ると子どもからの接し方が変わり無条件で頼ってくれるので、こちらも遠慮なく成長の手助けができます。良いことをした子どもを思いきりほめてあげると、どんどん伸びていくのを感じています。

(黒柳さん) 入隊は幼稚園ですが高校生ぐらいの頃から下の隊員たちの面影を見ることに魅力を感じるようになりました。長く携わっていると辛い経験もたくさんあります。そのおかげで、同じような悩みを抱えている隊員がいた時には親身になって寄り添うことができるのだと思います。



守谷市

ボーイスカウト守谷第1団

夏まつりを迎えたこの日、リーダー(指導者)に教わりながら竹水鉄砲やゴム空気砲の工作にチャレンジした隊員たち。笑い声と歓声が絶え間なく聞こえるなか、お互いに全力で取り組む両者から垣間見えたのは心から信頼し合う固い絆でした。守谷市を拠点に40年以上の歴史があるボーイスカウト守谷第1団。現在は65名の団員が所属し、共通の理念のもと活動に励んでいます。



小学6年 堀越 貴士さん

カブ隊の頃、食事を作って提供したとき感謝され、もっとがんばろうと思いました。

いろいろな経験が出来るので体力もメンタルも強くなると感じています。

中学1年 那珂 巧生さん

自分の経験を活かしたことで「楽しい」「美味しい」と喜んでもらったときはすごく嬉しかったです。

中学3年 古瀬 佳蓮さん

★活動にあたり大切にしていることは？

地域課題の解決方法を考える時に大切なのは、“高校生だからできる”、“私だからできる”を探ることです。自分の何が活かせるのか、そう考えながらアイデアを出していくうちに、地域の課題に自分事として向き合えるようになります。自分のやったこと、つくった物が誰かの役に立って喜ばれる。その体験が自己の可能性の確信につながり、次の挑戦に踏み出す勇気を与えます。



代表コーチ 大滝 修さん

★多くの高校が参加するに至った経緯は？

レイテ島への災害支援の必要性が叫ばれた時、各校とも何らかの支援をしたいという思いはあったのですが、その糸口がありませんでした。そこへ取手一高だけでは十分な支援品が用意できない事態が起き、各校に協力を呼びかけたところ多くが賛同してくれました。2016年熊本地震の支援には7校90名が参加していましたが、多くの参加者を維持することは大変で、現在、参加者がいない高校もあります。

★より良い活動のためにしていることは？

定期的な募金活動や作成した冊子の販売などで資金を調達していますが、冬場は安全面を考慮し地域の方々に支援をお願いしたりもしています。参加する高校生に負担をかけず、ボランティアができる環境を整えてあげることが大切です。経費を自己負担すると生活費や学費で精いっぱい的高校生はボランティアどころでなくなってしまいます。

★活動を続けるみなさんの評価は？

ボランティア証明書を発行し活動の記録を残しています。進学のアピールポイントの1つになりますし、社会的信頼も得られます。活動を評価されている実感があればこそ継続できます。何を経験したかをきちんと自覚できるよう、活動を報告書にまとめています。



高校3年 松原 遥菜さん

子ども好きですが、UNSAMで不登校の厳しい現実を知りました。問題に直面したことで、みんなと解決していきたいという思いが強くなりました。



活動を通して様々な問題を身近に感じられるようになりました。これまでは助けたいと思うだけでしたが、今は行動に移せるので良かったです。

高校3年 宮本 瑚捺さん

高校生社会参画ネットワーク

取手市

一つ空の下で(UNSAM) アンサム

2013年フィリピン・レイテ島を襲った台風災害。物資の支援に立ち上がった取手一高から活動の輪が近隣高校へと広がり、UNSAM設立へつながりました。2021年、取手市のボランティア登録団体となり、現在は高校生のアイデアを活かした市内外の地域課題解決に精力的に取り組んでいます。



団体会員を訪ねて Vol.6

コスモ総合建設株式会社 茨城県水戸市けやき台 2丁目13番地2

事業内容 建設事業、不動産賃貸事業、住宅事業、リフォーム事業、不動産事業



創業35周年を迎えたコスモ総合建設株式会社は、県営住宅からコンビニまで県民の暮らしに大きく関わる建設工事を中心に事業を展開しています。その根底にあるのは、「やるべきことを、確実に、一生懸命に行う」という信念。公共の工事と同様に社会貢献活動にも“誇りと感謝の心”を持って取り組んでいます。



営業次長 菅原 秋彦さん
営業課長 榎 貴人さん

建設業という仕事柄、2019年の台風19号による災害ごみの片付けや鳥インフルエンザ防疫措置など大規模なボランティアへも参加する同社。一方、社長の発案による始業前の社屋まわりの清掃活動は、創業時から二度の移転を経た現在でも欠かさず続けられています。登校中の児童とあいさつを交わすこともあるそうで「地域貢献している実感が生まれ気持ちがいい」と語る榎さん。この他にも地元企業として地域とのつながりを大切に考え、地区自治会へマスク2,750枚を寄贈したり、河川の清掃活動に参加したりしています。これらの功績が認められ、令和2年度茨城県地球にやさしい企業表彰にも選ばれました。今年度からは、水戸市道路里親制度にも登録。地域貢献につながる同社の取り組みはこれからも進化を続けます。



チャレンジいばらき県民運動 会員募集

★団体会員(年会費) 10,000円
★個人賛助会員(年会費) 2,000円



チャレンジいばらき県民運動では、やさしさとふれあいのある茨城づくりと共助による新しい茨城の実現に向けて、福祉、環境保全、青少年育成、防犯・防災など様々な分野で、県民・団体・企業・行政が手をつないで支え合い、社会の課題に挑戦する県民運動を展開しています。このような趣旨にご賛同され、運動に参加していただける団体・企業、個人の賛助会員を募集しております。



令和5年6月24日(土) 洵沼自然公園周辺

ひぬま流域クリーン作戦

企業・団体・地域活動員(ネットワーカー)・県民活動推進員など約230名が参加し、洵沼湖畔のコース(約4.5km)や洵沼自然公園周辺コース(約2km)など3コースに分かれて清掃活動を行い総重量90kgのゴミを回収しました。

多くのゴミは、道路からは見えづらい草の茂みや雑木林にあり、参加者は協力してゴミを拾いました。参加された皆さんに、協賛企業から提供された水、エコバック、ごみを考える会(笠間市)が廃食用油を利用して作ったせっけんなどが配布されました。

【協賛企業】
ラムサール条約登録湿地ひぬまの環境保全茨城県民会議
(公財)茨城開発公社いこの村洵沼
イオンタウン(株)イオンタウン水戸南



第35回

寺子屋

NPO・地域活動者向け交流・学び合いの場

サルーンを開催します

参加費

無料

定員(予定)

30名

令和5年12月7日(木) 10:00~12:00 鹿嶋市立中央公民館(鹿嶋市宮中4631-1) Tel.0299-83-1551

地域活動に活かすLINE講座 ~LINEグループを活用しよう~

地域活動団体やコミュニティ内での活用を想定し、LINEグループで使える便利な機能と活用法について学びます。

内容

グループ作成や友達追加といった基本操作をはじめ、イベント作成や回答の仕方まで幅広く学びます。

対象

茨城県内のNPO法人、ボランティア・地域活動団体に所属し、これから活動でLINEを活用したいと考えている方やLINE機能を活用したグループ活動(地域活動)に興味のある方、または困っている方でLINEをインストール済みのスマートフォンをご使用の方。

みなさまの参加をお待ちしております



各サービスや講座の詳細は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

交流サルーンいばらき 水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸行舎2階
Tel.029-302-2160 Fax.029-233-0030

ホームページ▶ <https://challenge-ibaraki.jp/saloon/> E-mail▶ saloon@challenge-ibaraki.jp



開館時間

9:30~12:00、13:00~17:45
平日・土日
(火曜日・祝日・年末年始は休館)

県民運動を地域で支える地域活動員の活動紹介



ネットワーク常総

会員数33名(男21,女12)のうち40歳未満18%、40~50歳代42%、60歳代34%、70歳代6%と若い世代が比較的多い構成になっています。

各会員は、各自何らかのボランティア活動に参加していて、それぞれの活動で声を掛け合い、つながったことで、会員が集うようになりました。やはり会員相互の心のつながりが一番です。毎月1回定例会議を実施する中で、各事業に関して見直し改善をいつも行うこと、年間3事業を基本に、あくまでも強制参加でなく、参加できる事業から始めること、それぞれ活動の規模は参加会員数に沿って決定していくこと。以上が会の構成員が幅広く、若い年齢層になっている要因と思います。

会長 小林 操



大好きひたちネットワーク

平成17年5月設立、12名(男性8名、女性4名)の会員で「環境保全と美化、人と人のふれあい」を大切に活動しております。

設立当初から、自分たちの住む町の環境保全に重点を置き、ビーチクリーンキャンペーン(海水浴場の清掃)への参加、交流センターでの花壇作り、生活道路の空地に街角花壇と名付けて四季折々の花を植栽するなど、住民たちの心にうおいを与える活動をしています。11月には早朝から近くのJRの駅に向きあいさつ声かけ運動への参加をしています。また、小中学校の校門で児童・生徒たちと元気にあいさつを交わしたり、常日頃から小学生の下校時の見守りをしたりと精力的にボランティア活動に取り組んでおります。

会長 安島 清松

チャレンジいばらき県民運動

ネットワーク募集中!

地域活動員(ネットワーク)は、居住する地域において、地域の人たちのネットワークづくりや住み良い地域づくりに取り組んでおり、現在、約700名の方が県内各地で活躍しています。皆さんも、一緒に活動しませんか?

詳しくは、お住まいの市町村へお問い合わせください。

いばらきチャレンジアワード「支え合い2023」 ファイナリストプレゼンテーション・表彰式

観覧のお知らせ

日時

11月23日(木・祝) 13:00～

場所

ホテルレイクビュー水戸

福祉、環境、青少年育成、防犯・防災、地域づくり、コミュニティづくり、SDGsの推進など、様々な分野における社会的課題の解決に向けた、「社会貢献性」、「独自性」、「継続性」及び「発展性」の高いプランを表彰し、社会活動に向けてのチャレンジ精神を醸成するとともに、非営利の社会貢献活動を促進することを目的として本アワードを開催いたします。一次審査を通過したファイナリストが、プレゼンテーションを行います。観覧についての詳細、申込方法などはホームページをご覧ください。



昨年度の様子



投稿記事を募集しています!

チャレンジいばらき県民運動では、茨城県内各地域の情報や、地域活動員(ネットワーク)の活動の投稿記事を募集しています。投稿していただいた内容は、広報紙「チャレいばレター」や当県民運動ホームページ上でご紹介する予定です。ぜひ、お気軽に投稿してください。

登録方法



「地域活動情報」
はコチラへ

「取り組み情報」
はコチラへ



メルマガ会員を募集しています!

「チャレいばメールマガジン」は、チャレンジいばらき県民運動・交流サロoonいばらきからのお知らせや地域活動の最新情報やお役立ち情報を提供するメールマガジンです。

登録方法

毎月1回程度お届け予定です。
ぜひご登録ください!

右のQRコードを読み込んでいただくか、
下記のメールアドレスに空メールをお送りください。

challengeibaraki@y.bmd.jp



編集後記

水戸のふるさと自慢でも紹介されたことがある、水戸堀原地区の火の国祭が4年ぶりに開催されました。会場は地元の小中学生の熱気にあふれ、以前と変わらない姿で復活したようでした。本当に良かったと思います。同時に、コロナに感染して命を落とされた方、今でも後遺症で悩んでいる方が数多くいることを想い、感謝の気持ちを忘れずにいて欲しいと心から願って止みませんでした。(県民活動推進員 高橋)

今回のチャレいばレターでは、社会活動デビューするためのやり方や考え方のセミナー開催と、実際に活動している若い団体の特集を組みました。茨城県という地域は古きものと新しきものが混在しているところだと感じます。年配の方も若い方も地域の為に活動しているのは素晴らしいことだと思います。この特性を生かしてなお発展させていければ、日本一、人が住みやすい県になると思います。そのためには、それぞれの活動の横のつながりを深くつくっていただければいいように感じます。自分の活動だけでも大変ですが、年配の方や若い方たちともしっかりと話をしていきましょう。SNSの世界のような人を否定するのではなく、それぞれの活動や人を認め合いながら進めていきましょう。それが茨城県の無形文化財と自負できるように頑張っていきましょう。(県民活動推進員 石澤)

我が家の今日の新聞に、心地よい豊かな生活を送るためのSDGsイベントの開催告知と併せて、心地よさや豊かさを実現するために大切なことをテーマとした対談記事がありました。そこには、興味深いことが書かれていました。たばこや飲酒を控えることや習慣的な運動よりも、社会的なつながりを持つことの方が長寿や健康に関わってくるとのこと。我が意を得たり。いま、これほど自分の気持ちにぴったりくる言葉はありません。全国学校音楽コンクールの録画を流しながら、これを書いています。少年少女たちのまっすぐでひたむきな歌声。思いがけず至福の時間になりました。そうです、私たちが健康・長寿を目指して、明日も人と地域と社会と自然と、できれば世界にも目を向けてつながっていきましょう!(県民活動推進員 菊地)



お問い合わせ

チャレンジいばらき県民運動 広報紙

(発行) チャレンジいばらき県民運動 令和5年11月1日発行
(編集) 県民活動推進員(魅力発見・発信グループ)



チャレンジいばらき県民運動

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階
Tel.029-224-8120 Fax.029-233-0030
ホームページ ▶ <https://challenge-ibaraki.jp> E-mail ▶ info@challenge-ibaraki.jp

